

特113

888

竹生函

實生正流派校訂

氏信作



始



精113
888



謹
一
二
三

竹生鳴

前任手
後任手
神

天女

氏信作

竹生鳴の
いりか
ワキの
杯
是
竹生鳴

年号

是

竹生鳴の
辨才天
お
神

あ
く
は
座
向
以
度
君
よ
は
録
を
申

竹生

大正
5. 3. 28
内交

唯今好生鳴よし事倍倍り倍
 四乃官や河るふれ官を始末りやま
 く名も一可井水乃月
 星からぬ清代は逢坂の掬乃官
 指さしあおささし越るる志賀の
 せいのまの浦よのさよのさうく
 O'JIN 404

面白法は法まれものばあま浪
 毛うらに海乃打も一
 好ほらまを真長因よ道よ母乃
 道はまわさあまさあろ
 是は此浦里よまらん別く明を
 運ぶうららけの教をあうて

身まをらつと助をたさふと僕人の
際も浪もつ明をましく世を渡り社
物をきれぬよしとわかれぬ
あがらぬまよふたりかき海乃
上^上蘇^蘇名所なるまの境にわたりて
のまをて保をまき加ふれ都花園

むらあふらぬ山橋真野に入ら
少あよぶらぬ借すまをて
くしふそ成舟は候船
まあふは是なる山四矢橋の海
船もつとあふ成候まの海士た船
あつと程便船をまの海に

竹生

三

17
これをも釣舟と名づけては社使船

といふを。是ハ竹生嶋よりあてふ

訪乃者也。禁^{カサ}の舟に乘りま

高^{タカ}美^ミの山^{ヤマ}鳥^{トリ}雲^{クモ}地^チま^マく^クあ^アの^ノ舟^{フネ}

舟^{フネ}人^{ヒト}をい^イふ^フ申^{マウ}さ^サば^バは^ハの^ノ儀^ギ

又ハ舟^{フネ}も^モい^イふ^フ舟^{フネ} ^{カサ}さ^サら^ラぶ^ブお

舟^{フネ}を^ヲま^マあ^アら^ラせ^セん^ン 妹^{イモ} ^{カサ}や^ヤさ^サら^ラせ^セ

禁^{カサ}の^ノ舟^{フネ}の^ノ力^{チカラ}と^ト受^{ウケ}ま^マり

即^{トキ}ち^ニハ^ニ長^{ナガ}岡^ノを^ヲこ^スる^ル風^{フエ}

乃^ナ浦^{ウラ}よ^ヨお^オら^ラせ^セる^ル 教^{シヨウ}人^{ニン}の^ノ痛^{イタ}ハ

し^シや^ヤば^バ舟^{フネ}の^ノ痛^{イタ}ハ

し^シや^ヤば^バ舟^{フネ}の^ノ痛^{イタ}ハ

舟

舟

終ノルカチノ可カハ海ノ乃ノ上ノ歩ク園ノあ
 み乃ノ空ノをノ交シ山ノにノ花ヲまノあノまノや
 若クもノしノらノがノらノ白ノちノのノあノまノのノあノまノの
 るレ時ノ志ノらノぬレ山ノをノ教ノ乃ノにノあノまノあノれ
 やノ花ノをノまノえノるノはノまノまノのノあノまノの
 ねノあノらノしノもノもノ仲ノ薄ノふノあノまノ

よノまノつノまノづノのノあノらノびノ乃ノ思ノはノん
 毛ノをノあノのノまノはノもノんノ人ノもノ同ノド
 毎ノにノちノあノまノ衣ノうノらノをノ隔ノてノゆノく
 顔ノよノ竹ノげノ鳴ノもノんノもノりノやノアノ緑ノ
 樹ノ陰ノをノつノむノぐノりノ魚ノ木ノよノをノさノるノあノまノ色
 ありノ自ノ海ノよりノはノむノむノでノいノらノはノまノ

二一七
波もあつてあつたのうらやうに
船がうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに

○大目如集
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに
うらやうにうらやうにうらやうに

竹生

六

あつてさうも度種の毎通あまの御
文・女・人・の・も・あつて
道・は・ま・の・物・を・心・相・交・天・の・御
文・か・く・中・種・後・も・あつて
下・女・と・現・下・様・へ・海・を・か・か
俯・て・あ・唯・志・と・ぬ・分・と・葉・也

の・於・悲・歌・を・ね・ん
一・本・と・り・よ・り・女・子・の・利・生
文・の・情・ら・後・上・下
あ・ら・は・は・松・張・を・ま・よ・り
よ・ん・と・し・小・毎・我・る・人・間
此・の・種・の・麻・を・お・な・ま

階殿ハシノ入イきキ給タマひヒまマるルもモ水ミヅ中ナカ
みミつツとトみミがガ白シロ浪ナミ乃ナまマるルりリ我ワ
のノ海ウミ乃ナあアまマそソとトいイはハまマるル又マタ
波ナミよヨ入イきキ給タマひヒまマるルりリ上陸海ウミ殿ノあアまマるル
にニ鳴ナ動ドしてシテ日ヒ月ツキまマるルりリかカやヤまマるル
山ヤマ乃ナ端ハタ出デるルとトくクみミくク群ムラをヲ遊ユぶブ

そソかカどドきキ給タマひヒまマるルりリ委相サウ星セイハハ鳴ナるル
まマんンでデ神カミをヲ教シはハ國クニをヲ守マるル也ヤ
界カイはハ飛トビ女メをヲはハ我ワりリ也ヤ
塵チリをヲよヨ音ネ樂ガクのノあアまマるルりリ
くクもモ喜ヨシはハよヨのノ月ツキ乃ナ瞬タタくクもモあア
はハ終ハシるルもモくクもモねネまマるルりリ
はハ終ハシるルもモくクもモねネまマるルりリ

上
北
打

一 龍遊れ舞ふは対して月隈
 二 後了海づらに浪風吹り鳴動
 三 て下界に龍神遊き上り
 四 遊りま出現く
 五 かやく金銀珠玉と波稀人よ
 六 捧ふと氣色有強あり
 七 奇物あり

上
北
龍神

上
北
打

一 現ト有縁の言事法儀を
 二 まに下界に龍神と成り
 三 と舞めおとを歌い天女
 四 中に入らるを強く
 五 奇物あり

250
481

版權
所有

大正二年四月十一日印刷
同年四月二十日發行
大正五年三月十五日再版

校正者

實生正流



正價壹冊
金拾錢

長野市上四之門町十二番地
發行者 中澤眞治郎



長野市上四之門町十二番地
發行所 會眞



長野市大門町九十五番地
印刷所 塚田友次郎



賣捌所 全國各書林

湖氷は融けしう波を激し
おをくうして木地はむらがる木
蛇のうらちをたぐる大蛇の
かたはら龍宮より入んでぶらぶらに
まをる

終